

報道関係各位

2026 年 10 月 27 日

株式会社エスプール

障がい者雇用の現場にフィジカル AI 活用へ エスプールと松尾研究所が共同プロジェクトを開始

東京大学 松尾・岩澤研究室の研究知見を活かし、人とロボットの新たな協働モデルを農園から検討

株式会社エスプール（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：白川儀一、以下「エスプール」）と株式会社松尾研究所（本社：東京都文京区、代表取締役 CEO：川上 登福、以下「松尾研究所」）は、障がい者雇用支援領域におけるフィジカル AI の活用可能性を検討する共同プロジェクトを 2026 年 9 月より開始しました。

エスプールグループは、DX・AI 活用を経営の重要な軸と位置づけています。本プロジェクトでは、専門組織であるデジタル戦略推進本部が中心となり、エスプールグループが展開する障がい者雇用支援事業の現場を起点に、作業負荷の軽減や生産性の向上、働き方や業務の選択肢の拡大につながるフィジカル AI のユースケースを探索します。単に人の仕事を機械へ置き換えるのではなく、一人ひとりの強みを活かしながら、人とロボットが相互に補完し合う働き方の実現を目指します。松尾研究所は、東京大学大学院工学系研究科松尾・岩澤研究室とビジョンを共有し、AI 技術の社会実装に強みを持つ研究所として、本プロジェクトを技術面から主導します。

背景

障がい者雇用を取り巻く環境は、大きな転換点を迎えています。2026 年 7 月には民間企業の法定雇用率が 2.7%へ引き上げられ、企業には雇用機会の拡大に加え、一人ひとりが能力を発揮しながら働き続けられる環境づくりが、これまで以上に求められています。障がい者雇用支援をはじめとする社会課題解決型の事業を展開するエスプールグループにおいても、雇用機会を創出するだけでなく、働く方一人ひとりの特性や強みを活かしながら、安心して継続的に働ける環境づくりを重視しています。また近年、フィジカル AI に関する技術は急速に進展しており、実世界の状況を認識・理解し、判断や操作につなげる技術の活用が、さまざまな現場で期待されています。松尾研究所でも、フィジカル AI 領域における研究知見を活かしながら、技術の社会実装に向けた研究開発や企業支援に取り組んでいます。

そこでエスプールグループと松尾研究所は、障がい者雇用支援の現場が抱える課題や実現したい働き方を起点に、フィジカル AI の活用可能性を検討し、障がい者雇用支援領域における新たな価値創出につなげることを目指して、本プロジェクトを開始しました。

本プロジェクトの概要

本プロジェクトは、2026 年 9 月から 11 月までの約 3 か月間、エスプールグループの株式会社エスプールプラスが運営する障がい者雇用支援サービス「わーくはびねす農園」を対象に、現地での観察・ヒアリングを通じて、将来的なフィジカル AI の活用可能性を見据えた PoC 候補テーマを選定するものです。高度なフィジカル AI を一度に実現するのではなく、現場課題に対する事業価値と技術的実現性を整理し、社会実装に必要な技術・データ・運用上の要素を段階的に検証する第一段階として位置づけています。

主な実施内容は以下の通りです。

- ・ 農園等における現地観察および関係者へのヒアリング
- ・ ビジネス面と技術面の双方からユースケースを評価するための評価軸の設計
- ・ 候補ユースケースのロングリスト作成、評価・優先順位付け、および次フェーズで検証する PoC 候補テーマの選定

人を補完するフィジカル AI 活用に向けたアプローチ

本プロジェクトでは、障がいのある方の働き方や業務の選択肢を広げ、安心して長く働き続けられる環境をつくることを目的に据え、その手段としてフィジカル AI の活用を検討します。障がい者雇用の現場では、作業そのものを自動化することが、必ずしも働く方にとっての価値になるとは限りません。身体的な負荷の大きい工程をロボットが補い、品質の判断や仕上げなど、一人ひとりが強みを活かせる工程に注力できるようにする。そうした「人を補完する」活用のあり方を、現場の課題と実現したい働き方を起点に検討します。

初期段階では、ロボットの動作生成技術や物理環境を認識・理解・判断する AI 技術に加え、既存のロボット・機器と LLM や画像認識等を組み合わせる方法も含め、幅広い選択肢から、働く方にとっての価値と実現可能性の高いテーマを検証します。そこで得られたデータや知見を蓄積し、自律的に認識・判断・操作するフィジカル AI の活用も中長期的に見据えながら、技術の進展や現場での運用状況に応じてロボットが担う範囲や支援の度合いを見直し、障がいのある方の働き方や業務の選択肢を広げる就労支援モデルの実現につなげていきます。

両社の役割

エスプール：

障がい者雇用支援事業および農園運営に関する現場知見・業務課題を提供し、現地観察・ヒアリングに向けた関係者調整や情報提供に協力します。また、ユースケース候補や評価結果、PoC 企画案に対して、事業方針・現場適合性の観点からコメント・フィードバックを行い、次フェーズで検証するテーマの意思決定を担います。

松尾研究所：

AI・ロボティクス・LLM 等に関する研究知見と社会実装の経験を活かし、プロジェクト全体を主導します。現地観察・ヒアリングの設計、ビジネス面・技術面の評価軸設計、候補ユースケースの抽出・評価、技術的実現性のレビュー、優先順位付け、PoC 候補テーマの検証方針整理、および最終報告書の作成までを一貫して推進します。

今後の展望

両社は、2026 年 10 月末を目途に次フェーズで検証する PoC 候補テーマを選定し、11 月末までにユースケースリスト、評価結果、PoC 企画概要を含む最終報告書を取りまとめる予定です。選定テーマについて、目的、検証内容、成功条件、想定する技術・データ、検証環境等を整理し、次フェーズの実施判断につなげます。本プロジェクトで得られた知見は、全国 64 拠点で展開する「わーくはびねす農園」への横展開や、障がい者雇用支援における新たなサービス開発に活かしていく考えです。

コメント

株式会社エスプール 常務執行役員 CDO 兼 CDAO 兼デジタル戦略推進本部長 中村 繁貴

エスプールグループは、障がいのある方の雇用機会の創出にとどまらず、一人ひとりが強みを活かして長く働き続けられる環境づくりに取り組んできました。フィジカル AI は、人の仕事を置き換えるものではなく、身体的な負荷を軽減しながら、働き方や業務の選択肢を広げる技術だと考えています。

本プロジェクトは、DX・AI 活用を専門に担うデジタル戦略推進本部が中心となって推進します。東京大学松尾・岩澤研究室の研究知見を活かして AI の社会実装を牽引する松尾研究所とともに、農園の現場を起点として、事業価値と実現性の高いテーマを見極めてまいります。ここで得られる知見を、障がい者雇用支援の新たなモデルづくりと、一人ひとりが強みを活かして働き続けられる社会の実現につなげてまいります。

株式会社松尾研究所 共同研究事業責任者 執行役員 清水 茂樹

フィジカル AI の社会実装には、ロボットや AI 技術の高度化に加え、現場データや運用知見を継続的に蓄積し、人と機械がどのように協働するかを具体化していくことが重要です。本プロジェクトでは、高度なフィジカル AI の現場実装を中長期的な到達点に据え、まずは現場が抱える課題と実現したい価値を起点に、実現可能性と事業価値の高い PoC 候補テーマを選定します。段階的な検証を通じて得られるデータや知見を、将来的なフィジカル AI 活用と、障がいのある方の働き方や業務の選択肢を広げる就労支援モデルの実現につなげてまいります。

＜株式会社エスプールについて＞

株式会社エスプールは、「アウトソーシングの力で企業変革を支援し、社会課題を解決する」をグループミッションに掲げ、ビジネスソリューション事業および人材ソリューション事業を展開しています。企業向け貸し農園「わーくはびねす農園」を通じた障がい者雇用支援をはじめ、社会課題の解決につながる事業に取り組んでいます。また、DX・AI活用を専門に担うデジタル戦略推進本部を設置し、グループ全体の事業変革を推進しています。

所在地：東京都千代田区外神田 1-18-13

代表者：代表取締役社長 白川儀一

設立：1999 年 12 月

Web サイト：<https://www.spool.co.jp/>

株式会社エスプールプラス（わーくはびねす農園） Web サイト：<https://plus.spool.co.jp/>

＜株式会社松尾研究所について＞

株式会社松尾研究所は、国立大学法人 東京大学大学院 工学系研究科 松尾・岩澤研究室に伴走し、大学を中心としたイノベーションを生み出す「エコシステム」を作り、大きく発展させることを目的に設立された研究所です。アカデミアから生み出される研究成果・技術の開発・実装を行い、広く社会への普及を目指すことで、日本の産業競争力向上に貢献しています。

Web サイト：<https://matsuo-institute.com/>

以 上

取材・内容についてのお問い合わせ先

株式会社エスプール 経営企画本部 コーポレートコミュニケーション部 担当：平野

Email：kouhou@spool.co.jp

TEL：03-6853-9411

株式会社松尾研究所 広報担当

Email：pr@matsuo-institute.com